

拝啓、

盛夏の候、時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。日頃より青年部事業に際し、格別のご高配を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、このたび平成 19 年 7/5～7/9 迄 ベトナム ハノイそして香港に[海外視察研修会]で行かさせて頂いた感想や結果をレポート提出させていただきます。

最初の訪問国 ベトナム社会主義共和国の首都 [ハノイ] でした。南のホーチミン市が商業の中心地ならハノイは政治、文化の中心都市です。

到着初日は簡単な市内視察をした後、食事をし早めに休みました。

二日目は午前中ハノイの観光の名所 ホーチミン博物館・一柱寺などに行きました。

ホーチミン内部にはベトナムの民族的英雄ホーチミン主席の遺体がガラスケースに入れられて安置されているとの事です。

午後はベトナム国営企業の視察に行っていました。 塗装・エンジン・台所用品の鍋や食器などを北欧などに輸出してる会社です。工場を四ヶ所持ち従業員数 2.700 名の会社だそうです。 驚いた事に高校卒業の新卒の初任給が日本円で一万円程度と聞き驚きました。しかし、販売してるステンレス製の鍋の値段を見てみると日本で売られている値段の 30 パーセント程度しか安くないのでベトナム企業におけるベトナム人の人件費を比較すれば会社の利益は計り知れないと思いました。それでもベトナムは就職難で失業率を考えれば働く従業員はありがたく考えてるのでしょうか。その証拠に一度会社に就職すれば退社しないと聞きましたから雇用する側は大変ある意味従業員を使いやすいと思いました。会社の利益追求、ベトナムの経済発展に好循環になっていると思いました。

今現在、ガイドさんに聞いた話によれば社会主義の国だから農地は国から 5 年周期で平等に国から借りて農業をし年商はおおよそ日本円で 18 万円ほどで肥料や稲の仕入れ、税金などの必要経費を引くと手取月収は約 15.000 円程度だそうです大変貧困です。

又、農地は国から借りて時期が来れば国に返しますが個人所有の宅地や土地は別だそうです。年々にベトナム経済は発展し土地単価も高騰してるそうですからベトナムの人気のある土地を不動産投資するのも面白いと思いました。10 年前は首都ハノイも自転車ばかりと聞きました。しかし、今は日本製のバイクがほとんどです。10 年後は日本製の低燃費車が主流になると思いますから日本企業のベトナムへの進出は著しいと思います。

三日目はハノイからバスで 2 時間程度の [ハロン湾] に行き船上にてシーフードを食べました。 ベトナムきっての景勝地のハロン湾。海面からニョキニョキと突き出した大小 2.000 の奇石が幻想的な光景で大変きれいでした。

四日目はベトナムを後にして一路香港へ。

香港に着いたのは夕方近くでした。なにしろ香港に来て驚いたことは一個建ての住宅がないことです。街が高層ビル、ビル、ビルだらけです。

さすがに西洋と東洋の文化が融合し魅力ある街香港です。

一度ホテルに着き荷物を置くとすぐに市内視察に行きました。

ガイドさんの話によると香港の人口密度は驚異的な数字です。一キロ平方メートルに人口が60万人いるそうです。ですから狭い土地に高層ビルがびっしり建ち並ぶ事情がわかります。高層ビルのマンションの家賃は2Kの狭い間取りで日本円で10万円前後だそうです。ですから、決して安くはありません。高級外車などたくさん日本より走っていたから歴然と貧富差がはっきりしていると考えられます。

船上レストランで中華の食事を終えてヴィクトリア・ピークにて香港の夜景を見ました。

しかし、観光客や地元の人たちで大変混んでたので頂上までは行きませんでした。

しかし、100万ドルと言うだけあって大変きれいでした。

香港はヨーロッパ諸国の植民地としてアジアの進出への足場になり繁栄、発展を成し遂げました。そして、1997年に中国に返還されたので今も西洋の文化や東洋の文化、習慣などが入り組んで感じました。

是非、又個人にて香港に来たいと思います。そして今度着たときは〔マカオ〕に行き観光等したいと思います。

最後になりましたが今回 所沢商工会青年部〔海外視察研修会〕に参加させて頂きありがとうございました。そして、一緒にご同行させて頂いた皆様 ご迷惑を多分にお掛けした事とは存じますがありがとうございました。

今後〔海外視察研修会〕にて得た事を自身の商売に生かし邁進していく所存です。

来年の〔海外視察研修会〕もありましたら是非、参加させて頂きたくおもいます。

株式会社 大生グループ

代表取締役 藤島康生

敬具